

シオニスト・アングロアメリカン枢軸が、ロシアと戦う決意が固いのはなぜか？

「ストラトフォー」シンクタンク創始者がロシアについて爆弾演説後、辞める

【訳者注】この具体的な発言については、ビデオの字幕もなく、翻訳もつけていないので、わかりにくいかもしれないが、フリードマンは、アメリカにとって侵略は当然の特権だという前提で、細かい戦略などを漏らしているようである。重要なポイントは、「いま世界が目撃しているのは、光の勢力と闇の勢力の最終的な戦いだ」という指摘と、最後の、エドガー・ケイシーの預言である。「ロシアの中から、世界の希望が再び生まれてくる」ということ、「仲間のために生きる」という原則はロシアで生まれたということ、共産主義は関係がないということ、をはっきり言っている。ケイシーが死んだのは1945年、第2次大戦の終わったそのころ、そんなことを公言する人はいなかった。アメリカとロシアが、本質的に、悪魔と神の対立で、アメリカは滅びるといふ我々の仮説が、ここでも支持されている。

SOTN (State of the Nation)

May 8, 2018

2015年2月3日、Stratfor（米民間シンクタンク）の創始者で重役のGeorge Friedmanが、公衆の面前で、收拾のつかない、致命的なしくじりをやってしまった！

「地球情勢に関するシカゴ会議」の席で演説を行っていたとき、フリードマンは、どんな情報専門家もかつてばらしたことの無いことを、ばらしてしまった。いかにもそれらしい、彼の演説のタイトルは、「**ヨーロッパ：運命付けられた衝突？**」であった。

ほとんど2時間の話と質疑応答を通じて、フリードマンは、地球の制覇を維持するために、シオニスト・アングロアメリカン枢軸のリーダーシップによって、日常的に用いられている秘密の戦略についての、高度に特権的な情報を打ち明けた。

ストラトフォー社の情報担当主任による、このあつけにとられる暴露は、驚きであると同時に前代未聞であった。実に、超極秘ともいふべき（高い放射能をもつ）情報を、フリードマ

ンがこのようにばらしたことは、現代における一つの決定的な瞬間であった。

このビデオは、フリードマンの完全に許されぬプレゼンテーションの、最も重要な部分を捕えたものである：——「前ストラトフォー社長ジョージ・フリードマンは、講演“ヨーロッパ：運命づけられた衝突？”の中で、完全に正気をなくしたか？」（ビデオ）

<http://stateofthenation2012.com/?p=99044>

シカゴの大失態の直後に提出された辞表

次にあげるのは、「地球情勢に関するシカゴ会議」の一場で、彼がこの運命の演説を行った、2015年2月3日、火曜日という日付が見える。

The image is a screenshot of a webpage from The Chicago Council on Global Affairs. At the top left is the organization's logo. A navigation bar includes links for RESEARCH, EXPERTS, EVENTS, VIDEOS & PODCASTS, MEMBERSHIP & SUPPORT, and ABOUT US. The main heading is "EUROPE: DESTINED FOR CONFLICT?" with a sub-heading "George Friedman, Founder and Chairman, Stratfor". Below this is a video player interface. The video title is "Chicago Council on Global Affairs Europe: Destined for Conflict?". It shows a play button, a progress bar at 1:11:50, and a "Share" button. To the left of the video player, it says "Tuesday 02/03/15" and "Event: 5:30 pm - 7:15 pm". Below the video player is a "Partner" section featuring the logo of "The Chicago Club" with the years 18 and 69. At the bottom of the video player, a still image shows George Friedman speaking at a podium with the Chicago Council on Global Affairs logo in the background.

下にあげるスクリーンショットは、ジョージ・フリードマンの「ウィキペディア・ページ」からのもので、彼自身が創設した私設情報会社を、辞めたことを示している（下の第3パラグラフ）。

Career [edit]

Prior to joining the private sector, Friedman regularly briefed senior commanders in the armed services as well as the Office of Net Assessments, [SHAPE Technical Center](#), the [U.S. Army War College](#), National Defense University and the [RAND Corporation](#), on security and national defense matters.^[*citation needed*]

Friedman pursued [political philosophy](#) with his early work focusing on [Marxism](#), as well as [international conflict](#), including examination of the [U.S.-Soviet relationship](#) from a military perspective.^[*citation needed*] After the [collapse of the Soviet Union](#), he studied potential for a U.S.–Japan conflict and co-authored *The Coming War with Japan* in 1991.^[4]

In 1996, he founded [Stratfor](#), a private intelligence and forecasting company, and served as the company's CEO and Chief Intelligence Officer. Stratfor's head office is in [Austin, Texas](#). He resigned from Stratfor in May 2015.^[*citation needed*]

多くの批評家が、なぜこのような驚くべき失態が起こったのかについて、さまざまな推測をしているが、フリードマンが正常な精神状態でなかったことは間違いない。しかし、ある鋭いアームチェア政治アナリストは、このような洞察力ある観察をしている：――

もしあなたが「シオン長老会議協約」を読んだことがあるならば、このフリードマンの失態は、「シオニストの目標を屋根の上から叫ぶ」という見出しがつけられるだろう。それは、ウサギを食う前に麻痺させるために、あらかじめそれを通告することで、彼らの蛇のような悪を合法化するための、戦略である。」――JPW

この説は、ある程度の真実性をもつかもしいないが、あの男ジョージは、あの晩、平常心を失っていた――完全に正常ではなくなっていた、と考える方が真実に近いだろう。パックス・アメリカーナについての、何十年に及ぶCIAのプロパガンダ工作によって、彼は、自分が偉い人間の立場に立っている錯覚を覚えていたのであろう。彼は、完全に、どんな反動もこないと思い込んでいたのだろう。そのような、自分が誰からも孤立しているという間違った感覚に、アメリカ例外思想の傲慢が加わって、この“シカゴの不名誉の夜”と、それに続く追放が起こった。

フリードマンの、この驚くべき判断の間違いの深刻さを、よりよく理解するためには、次の分析がすぐれた詳細を提供してくれる。

「[ストラトフォー社チーフが、シオニスト・アングロアメリカンの世界征服計画を明らかにする](#)」 <http://stateofthenation2012.com/?p=22223>

ここにあげた暴露記事は、「なぜ、アングロアメリカン枢軸が、ロシアに戦争を仕掛けることを、これほど決意しているのか」を、この上なく明らかなものになっている。しかし、この“壮大なゲーム”をよく知っている人々にとって、同じく理解しておくべき、もっと重要な裏話がある。すなわち——「すべての作りだされた反ロシア・ヒステリーの背後に、本当は何があるのか？」 <http://stateofthenation2012.com/?p=68902>

地球的な地政学的チェスボードが、現在、多くのレベルにおいてプレー中である。それを5Dチェスと呼ぶ者もいるが、現実には、それは12Dを超えている。現実的観点からすれば、全世界がいま目撃しているのは、光の勢力と闇の勢力の間の最終的戦争である。

次の13部のシリーズは、現在、この惑星全体に及んで戦われている、この“タイタン（巨人）の戦争”の表面をさらったものにすぎない。

Part I — 「東と西の間の、最後で最大の戦争はウクライナに収斂する」

<http://stateofthenation2012.com/?p=4993>

Part II — 「地球的な力の位相は、西側から東側へ移行する」

<http://stateofthenation2012.com/?p=5263>

Part III — 「ウラジミール・プーチンのロシア：アングロアメリカン枢軸と彼らの New World Order の、完全な対照物」 <http://stateofthenation2012.com/?p=8159>

Part IV — 「アングロアメリカン枢軸が、ロシアに対して金融/経済戦争を仕掛ける」

<http://stateofthenation2012.com/?p=8159>

Part V — 「第3次世界大戦：アングロアメリカン枢軸 vs. BRICS 同盟」

<http://stateofthenation2012.com/?p=9465>

Part VI — 「プーチンのロシア：New World Order のネメシス（怨敵）」

<http://stateofthenation2012.com/?p=11738>

Part VII — 「USA：New World Order の軍事部門」

<http://stateofthenation2012.com/?p=6115>

Part VIII — 「ストラトフォー社チーフが、シオニスト・アングロアメリカンの世界征服

計画を暴く」 <http://stateofthenation2012.com/?p=22223>

Part IX—「プロメテウス主義：ロシアを孤立化させ征服する、NWO 戦略の背骨」

<http://stateofthenation2012.com/?p=27123>

Part X—「プーチンのシリアでの弾道弾で、米の秘密中東戦略は吹っ飛ぶ」

<http://stateofthenation2012.com/?p=23524>

Part XI—「プーチンのロシア、“深層国家”によって無情に攻撃される」

<http://stateofthenation2012.com/?p=84332>

Part XII—「2016 米大統領選挙を操作しようとしたのはロシアでなく、イギリスだった」

<http://stateofthenation2012.com/?p=87585>

Part XIII—「すべての作られた反ロシア・ヒステリーの背後にあるのは、本当は何か？」

<http://stateofthenation2012.com/?p=68902>

こうした肝要の問題について、教育があり知識をもっているほど、あらゆる場所の有能な愛国者たちは、それとの取り組みに成功するだろう。

少なくとも言えることは、すべてが実はロシアに行き着くということで、これは、世界的に有名な心霊家で現代の預言者エドガー・ケイシーが、正確に指摘している。

ロシアを通じて——ケイシーは言った——「世界の希望がやってくる。共産主義とかボルシェビズムとか言われているものに関係はない——そうではない！ 自由だ、自由を通じてだ！ すべての人間が、自分の仲間のために生きるということ、この原理はそこで生まれたのだ。それが結晶化するには長い年月がかかるだろう。しかしロシアの中から、世界の希望が再び生まれてくる。」（ソース：PROPHETIC: Edgar Cayce--'Russia--The Hope of the World'） <http://themillenniumreport.com/2014/08/edgar-cayce-russia-the-hope-of-the-world/>

——以上